



ザリガニの水そうに、なぜこけが生えるの

こけのように見えるのは、「も」や植物性プランクトン

ザリガニは、水そうの中でふんをし、同じ水の中で食事し、その水を飲みこんで、えらで呼吸もしています。ザリガニを飼いはじめると、水の中に、ふんやら、えさのかすなど、いろいろな物がふえ、それをえさにする、バクテリアがふえてきます。水そうのガラス面や、底の砂やじゃりの表面などにくっついたバクテリアは、ザリガニのふんや、えさの残りなどを分解し、害のない栄養分にかえてくれる役目をしています。バクテリアの作り出した栄養分を、植物性プランクトンや、水草、水そうのかべなどにくっつく「も」などが、利用します。この植物プランクトンや「も」が、水そうのかべにくっついたものが、黄緑や茶色っぽいこけのように見えます。

水草や「も」は、水中に酸素を出す

水草や「も」、植物性プランクトンなどは、ザリガニが呼吸ではき出す二酸化炭素を吸収し、地上の草や木と同じ光合成（光の助けをかりて、二酸化炭素と水から、でんぷんなどの栄養分を作る）を行い、酸素を水中に出します。この酸素は、ザリガニが呼吸するのに使われます。このように、バクテリアや「も」、植物性プランクトン、水草などと水中の動物は、食べる物、排せつする物を、うまく利用しあって生きているのです。

日光がよく入る、明るい部屋に置いた水そうは、暗い部屋に置かれた水そうに比べて、植物がよく育つため、こけのようなものがよくつくはずです。（監修・安部 義孝）

